

留学体験記 文藻外語大學 (Wenzao Ursuline University of Languages)

1702044 法律学科 玉城ティアラ

昨年 9 月、期待と不安が入り混じった気持ちで台湾に降り立ったことが昨日のことかのように思い出します。台湾から志學館に留学に来ている台湾人との出会いがきっかけで中国語を勉強したいと思い台湾に留学することを決めました。

留学当初は、全く言葉が話せず苦労することが多かったですが、文藻外語大學にはバディ制度というものがあり日本人留学生に対して一人ずつ日本語が話せる台湾人が着いてくれるためとても助かりました。食生活では、好き嫌いの激しい私にとって、現地の食に慣れるのにはとても時間がかかりましたが、気づけば色々な食べ物に挑戦していました。

授業では、本科性と受ける一般の授業と留学生が受ける中国語の授業があり、一般の授業では、自分が学びたい授業を履修でき、私は台湾の文化や観光などの授業を履修しました。授業の中には日本語を学ぶ台湾人も多くいるためお互いに教え合いながら楽しく受けることができました。中国語の授業では、レベルごとにクラスが分けられ自分にあったレベルで学習ができ、文法や会話などを学びました。クラスは日本人の他に韓国人、フランス人、ドイツ人、アメリカ人等国際色豊かで、ディスカッションなども多く行われ文化や思想の違いで驚きがいっぱいでした。

寮生活では、4 人一部屋で私の部屋は、台湾人 2 人、フィリピン人、日本人で住んでいました。ルームメイトは中国語を教えてくれたり、逆に日本に興味を持ってくれて日本語を覚えようとしてくれたり、たまには皆で食事に行ったりなど私に優しく接してくれたのでとても住みやすい環境にいました。

休みの日には、旅行に行ったり週末には飲み会をしたり、一般の野球チームに入れてもらい週に一度体を動かしたりなどとても楽しい留学生活でした。

留学を通して語学力がついたのは勿論ですが寮生活や台湾で様々な所を訪れることで、日本とは異なる文化を肌で感じる事ができ、様々なことに触れ、日本の環境の良さ、安全性など日本の魅力を更に知ることができたと思います。また、日本人の学習に対する意欲の低さや、外国人が思う日本人の欠点を知ることができ、更に日本を客観視することができました。現地で学び、感じ、挑戦できた 1 年間はとても有意義なものでした。

